



開催中 1945年6月9日 熱田空襲 8分間で奪われた2000人のいのち 3月10日(火)~4月25日(土)

たった8分間で2000人を超える名古屋空襲最大の犠牲者がでた1945年6月9日の空襲は、熱田区にある愛知時計電機と隣接する愛知航空機をねらったものでした。米軍報告書によると、42機のB29が265トンの高性能爆弾を投下、愛知時計電機工場の95.7%、愛知航空機発動機工場の53%に破壊や損害を与えました。

6月9日は、昼間複数の都市(兵庫県西宮市、明石市、名古屋市熱田区)で軍需工場を攻撃する米軍の「エンパイア作戦」の初日でした。また破壊力の大きな2トン爆弾が日本で最初に使われた日でした。投下された150発265トンのうち121発242トンが2トン爆弾で、鉄筋コンクリート4階建の建物を突き破り、地下室に避難していた従業員・勤労働員学徒の命まで奪いました。

その上、防空司令部による空襲警報の解除という致命的なミスが重なり、従業員・学徒が工場へ戻り作業を再開した時に突然爆撃が始まり、多くの犠牲者が出たのです。



■関連イベント

「熱田空襲—ミニ解説と体験の語り継ぐ」開催
3月28日(土)

金子力さんによる熱田空襲の解説と、田中玲子さんによる「熱田空襲体験者・堤茂子さんの語り継ぎ」が行われました。



■来館者の感想

- ・2トン爆弾の大きさ、威力をまざまざと実感。
- ・愛知時計が軍用機を造っていった過程がよくわかった。
- ・地元に住んでいるので「熱田空襲」について知っていることが多かったが、県内外からたくさんの勤労学徒が来ていたことにビックリした。“空襲警報が解除されたらすぐ工場に戻れ!”とは、いのちをコマのようにしていると思う。“戦争だから当たり前”“それが戦争”。本当に異常だと思う。
- ・大正5年生まれのお父さんが愛知時計電機で働いていた。その日は他の場所にいたので難をのがれたと言っていた。
- ・名古屋育ちですが、熱田空襲など全く知りませんでした。知らなくてはいけません。命をつないでもらった私たち。平和を願っていくことの大切さを知りました。

＜展示内容(パネル29枚、他)＞

- なぜ愛知時計電機がターゲットになったのか
時計生産の50%を占めていた名古屋／「愛知時計」の誕生と軍事精密部品の生産／海軍へ艦上爆撃機を独占的に供給 他
- なぜ8分間で名古屋最大の犠牲者が出たのか
ある勤労働員学生の証言／米軍「エンパイア作戦」が最初に実行された日／2トン爆弾が初めて使われた日／被害を拡大させた警報ミス／市民を守り切れなかった軍の防空 他
- 6月9日の空襲を語り継ぐ(体験談・証言) 他

報告 名古屋空襲から81年～犠牲者追悼の夕べ 3月14日(土)

「常設展の大きな写真、あの被弾して黒煙をあげる三菱の工場近くに私の住んでいた家が写っています。しかしこの空襲で焼けてしまいました」と、自作の画像を示しながら始まった森下規矩夫さん(88歳)の語りは、1944年12月13日に米軍が軍需工場(現在の東区バンテリンドーム近く)を狙った空襲の体験でした。

続いて前庭の平和地蔵前へ移り、平和メッセージを書いたともし火に囲まれて、名古屋空襲全体では8000人近くあった犠牲者を追悼しました。

平和地蔵に集う一人ひとりの平和への願いは、変わることなく続いています。今も世界で起きている戦火が一日も早く鎮まることを祈りながら。



予告 準常設展

「沖縄から平和を考えるーウチナーとヤマトの懸け橋に」
《特別展示》首里城と沖縄戦

5月5日(火)～7月4日(土) 最終日は15時まで

中国の海洋進出や台湾有事を念頭に、政府は南西諸島で自衛隊の体制を強化する方針です。このような状況は島の安全を脅かし、沖縄の人々の分断を深めることにならないでしょうか。琉球王朝から現在に至る沖縄の歴史を振り返り、考えたいと思います。

今年の特別展示では「首里城と沖縄戦」を取り上げます。今秋、正殿が公開される予定の首里城の地下には、第32軍司令部壕が構築されており、沖縄戦における重要な歴史的遺構として、その保存と公開の準備が進められています。今後の首里城再建に向け、近代以降の首里城について理解を深めます。



戦前の首里城

■関連展示

- 2階プチギャラリー
「沖縄の基地問題は私たちの問題」
- 2階映像コーナー
沖縄戦体験者の証言映像(沖縄県平和祈念資料館)



■関連イベント

- 5月16日(土) 13:30～16:00

映画と解説

ドキュメンタリー映画「太陽(ティダ)の運命」

任期中、県民から厚く支持された沖縄県知事の大田昌秀(第4代)と翁長雄志(第7代)の物語。2人は政治的には正反対の立場であったが、沖縄を代表する立場で民主主義や地方自治のあり方を訴え続け、革新的な県政で数々の業績を残していった……。

解説: 阪井芳貴さん(名古屋市立大学名誉教授)

- 6月20日(土) 13:30～15:30

講演: 沖縄糸数アブチラガマガイド 當山菊子さん
「沖縄戦から伝えたいことー平和の大切さ」



修復中の首里城
大屋根
(2025.5.9撮影)

予告 「開館19周年 ピースまつり」 《入館料無料》

5月5日(火・祝) 11:00～16:00

19周年のピースまつりは、ステージ企画・展示ガイドにテントショップが復活します。家族でご来館下さい。

○ステージ企画

- ・エイサーとバルーンアート
出演/きららハウス5人組「ゆいゆいエイサー」&HIRO



- ・ギターで歌う 出演/「ソルティ・シャトー」
- ・ウクレレ平和漫談 出演/平田雅己
- ・朗読 出演/「ピースあいち朗読の会「オリブ」

○テントショップ

- ・折れたバットの再生品販売
大学野球部の折れたバットを回収し、愛知県立名古屋聾学校の生徒が木工機器を駆使して製作した再生品が並びます。手作りの風合いが何とも素敵です。
- ・ラミネート生地のポーチ販売「ハンドメイドショップ hanappa」
「ラミネート生地のポーチ」も選ぶのが楽しそうです。

○展示ガイド

2階常設展/3階沖縄展「首里城と沖縄戦」
3階企画展「沖縄展」は初日。今回の特集展示「首里城と沖縄戦」を詳しくガイドします。

予告 ピースあいち特別企画 第6回 丸木位里・丸木俊「原爆の図」展

7月21日(火)～9月5日(土)



《第3部》水(1950年)



《第14部》からす(1972年)

今年の夏、丸木位里・俊の「原爆の図」展を開催します。ピースあいちで開催の《原爆の図》展は第6回目、今回は《第3部 水》(1950年)と《第14部 からす》(1972年)を展示します。初めて《原爆の図》に触れる方には作品が持つ強い訴えを、これまで向き合ってきた方には、その時々的心里に寄り添う新たな思いや気づきを感じていただけるのではないのでしょうか。

今回は、丸木位里の母・丸木スマの作品も展示します。原爆の惨禍を生きた一人の女性としての視点や、日常のいのちへのまなざしが、夫妻の作品とは異なる角度から戦争と平和を考える手がかりを与えてくれます。

さらに、原爆の図丸木美術館(埼玉県)の建物リニューアル工事中に見つかった1950年代に愛知県内で開催された《原爆の図展》のチラシなどの貴重な資

料も展示します。当時、作品がどのように受け止められ、どのように広がっていったのか、その歴史の一端に触れていただけます。

丸木家に連なる表現の系譜に触れることで、核と戦争の本質、人間の尊厳とは何かを改めて問い直す時間となれば幸いです。「ピカは人がおとさじゃおちてこん」(丸木スマの言葉)―その言葉が示す現実を、作品とともに感じてください。

◆関連イベント

7月26日(日) 13:30～

丸木美術館学芸員・岡村幸宣さんによるギャラリートーク

など期間中のイベント計画中です!

報告 第13回寄贈品展「戦後80年 時をつなぐモノたち」

2025年12月2日(火)～2026年2月21日(土)

31名の新たな寄贈者から寄せられた158点の資料を展示公開しました。

初日の「オープニングイベント」に4名の寄贈者をお招きして、寄贈品にまつわるエピソードや思いをお聞きました。

1月24日(土)の講演会「寄贈品から見る戦場」では、広中一成氏(愛知学院大学准教授)が展示中の日中戦争に出征した歩兵第六連隊の兵士の寄贈品を手掛かりに、当時の地図や歴史資料を通して実情を導き出しました。

また今回は、戦後80年の特別展示として、これまで



オープニングイベント



展示風景

に寄贈された軍隊手帳に記載された軍歴から9名の兵士たちの戦場の足跡を辿る地図を作成し展示しました。

「時をつなぐモノたち」が、戦争の記憶の伝承に大切な役割りを担っていることを改めて実感した寄贈品展でした。

平和へのメッセージ

今号は本居宣長記念館顧問の東博武さん以外、ピースあいち関係者の執筆になりました。

東さんには、2015年夏の企画展「竹内浩三の詩とその時代」で大変お世話になりました。フィリピンで戦死した竹内浩三は、映画監督をめざして日本大学専門部に入学。1942年9月

に繰り上げ卒業し入営、奇襲攻撃が任務の特殊部隊に配属されました。作品の多くは、入営が決まって以後の約半年で作られました。彼の詩はもちろん、軍隊の厳しい検閲のなか毎日書き続けた「筑波日記」も、戦火が静まらない今、ぜひ読んでいただきたい作品です。

平穏平安とは程遠い暮らしの中から

阪井 芳貴
(沖縄県美ら島沖縄大使・名古屋市長立大学名誉教授・当NPO理事)

ピースあいちでは、毎年沖縄慰霊の日をはさむ約二か月間沖縄企画展が開かれます。私はその最初の企画展(開館一周年記念展)から携わってきましたので、多くの方は私を沖縄戦や基地問題の専門家だと思っておられるかもしれません。実は、そうではないのです。

私は、日本文学・日本民俗学を専攻しており、とくに沖縄を通して日本を考えるという視座で研究を続けています。それは、師匠の師折口信夫から受け継いだスタンスですが、その研究のために、一年半ほど沖縄県宜野湾市に住み、島々の信仰・祭祀・芸能を観てきました。それは、ウチナーンチュの魂に触れる機会であり、その奥底にある沖縄の平穏平安な暮らしとそれを維持したいという想いを理解することでもありました。

しかし、現実の沖縄の生活は、とても平穏平安とは程遠いものです。程遠いのですが、それゆえに、ウチナー

ンチュはより穏やかに、たゆたう海の動きと合わせたような時間を大切にしているのだと私は理解するようになりました。それが沖縄から平和を願う強い志を生み出しているのです。沖縄を学ぶとは、こういうことだと思っています。

釋道空(折口信夫)は、戦後すぐに沖縄を憶う歌や隨筆を書いています。その中の数首を紹介します。

わが知れる 那覇の処女の幾たりも 行きがた知らず一。たゝかひの後
沖縄の首里の都の知る人を 饑ゑに死なせつ、さびしき時に
沖縄の洋のまぼろし たゝかひのなかりし時の 碧のまぼろし



憲法改悪に対する批判の根本

鈴木 秀幸
(当NPO理事長・弁護士)

高市首相は、台湾有事における「存立危機事態」答弁など、国連憲章、国際法、日本国憲法、安保法制に違反する発言を重ねている。「専守防衛」を踏み越えた態度を支持する世論には、ただ驚くばかりである。

高市氏が目論む改憲の狙いに、緊急事態条項の新設がある。首相が緊急事態を宣言すれば、法律と同じ効力の「政令」を出し、国民を従わせることができる。これは独裁で、戦争につながることは、歴史が証明している。改憲などせずとも、今の憲法と法律によって緊急事態に対応することは十分可能である。

もう一つは憲法への自衛隊明記である。これによって、第9条は死文化する。これを歴史の文脈から考えてみたい。世界大戦の経験から、人類は根本的に反省し、国連憲章と世界人権宣言を打ち立てた。我が国は世界に先駆けて日本国憲法前文と9条を定め、

将来、世界が同じようになることを願った。9条は理想ではなく、軍事力を解体した戦後日本の現実であり、侵略戦争の償いの国際公約であった。しかし、世界は冷戦構造となり、我が国に自衛隊が作られて憲法の理想は後退した。それでも、9条は、アメリカの戦争への参加要請を拒否する根拠として、軍事費膨張への歯止めとして機能してきた。この80年間の平和と繁栄の礎であった。

昨今は、護憲を訴え、「お花畑」「現実を見よ」と批判される。しかし、資源と食料の乏しい島国を、軍事化によって守ることはできない。憲法遵守による平和の追求こそ、実は現実的なのである。日本は、理想の世界の実現に向け、平和的手段で貢献すると誓った国である。



竹内浩三が遺した言葉、その無念を忘れない

東 博武

(元本居宣長記念館館長)

先日、名古屋の「ピースあいち」を訪ね、伊勢市出身の詩人・竹内浩三の足跡に触れる機会がありました。二十四歳という若さでフィリピンに散った彼の言葉は、終戦から八十年余りが経過した今も、驚くほど生々しく心に刺さります。

代表作「骨のうたう」や「日本が見えない」に込められた、愛国心や戦意高揚とは全く異なる一人の青年のありのままの心境は、深く胸を打ちます。これほど豊かな感性を持った人が、なぜ戦地に向かい、あのような最期を遂げねばならなかったのか。その無念を思うとき、「戦争を繰り返してはならない」という誓いは、単なる言葉以上の重みを持って迫ってきます。

実は、ここ松阪の本居宣長記念館には、浩三の貴

重な資料が大切に保管されています。松阪へ嫁いだ姉のこうさんが、弟の詩に込められた思いを後世に残したいと願い、縁あるこの地に託したものです。戦時下を生きた一人の青年の思いが、今もこの街に息づいていることに、不思議な縁を感じています。

地域の平和を守ることは、次世代の笑顔を守ること。浩三が愛した自由な表現や、当たり前を二度と奪わないために、私たちは彼の遺した詩を語り継ぎ、平和への歩みを止めてはならないと思った一日となりました。



カナダでの学びを通じて考える平和

土井 結月

(大学生・ピースあいちボランティア)

私は次世代チームで戦争について考え、未来の平和をつくるための活動に参加しています。

大学では世界の諸問題を学びながら、共生社会の実現がいかに難しいかを理解してきました。それでも希望ある社会を構想することを目指し学び続けています。主に南北アメリカの歴史や社会を研究する中で、昨年はカナダのプリティッシュコロンビア大学に留学し、ラテンアメリカ研究の講義を受けました。多くの国では、資源が豊富であるにもかかわらず貧困が続いています。その背景には、過去から現在まで続く搾取の構造や不平等が深く関わっていることを学びました。

また、私が住んでいたバンクーバーの土地も、もとは先住民が暮らしていた場所です。しかし、白人入植者に土地が奪われ、先住民は追いやられていきました。現在は和解の取り組みが進められていますが、ス

タンレーパーク内にある先住民の墓地が今もカナダ軍の基地として使われていることを知った時、強い衝撃を受けました。多くの先住民には、土地や自然は所有するものではなく共に生きるものとして捉える価値観があります。その考えに触れたとき、領土を奪い合うことで戦争が起きてきた人類の歴史がどれほど悲しいものであるかを改めて感じました。

今も世界の各地で戦争や衝突が続き、多くの人々が苦しんでいます。その背景には、価値観の対立や不平等、土地や尊厳が奪われる構造が潜んでいることを、カナダでの学びを通して実感しました。歴史を学び、他者の痛み想像力を向けることが、未来の平和を支える力になると信じています。



激変の春に思うこと

下方 映子

(当NPO理事・ピースあいち運営委員)

戦後80年の年が暮れたと思った矢先、唐突な選挙を仕掛けられて、衆議院はいまだかつて見たことのない勢力図に塗り替わりました。私は、15年近くSNSを使っていますが、SNSやYouTubeが国政をこれほど左右した現実には、驚きと恐怖を覚えます。掌中のスマホの世界は、「見れば見るほど似た内容が増える」仕組みと、拡散すればするほど広告収入が増す仕組みに支配されています。ビジネスも選挙も、この特性を利用して使いこなした側が勝つのです。

改憲勢力が衆議院の3分の2を超え、いよいよ発議が現実の視野に入ってきます。これまでは、たとえ議会構成がどうなろうと80年間不戦であったこの国の歩みは軽くないはず、最後の最後は国民投票で踏みとどまれるのではないかと、淡い期待がありました。しかし、

時代のフェーズは変わったようです。歴史を巻き戻すような「力による現状変更」が堂々となされる中、私たちが紡いできた言葉はこの先どこまで届くのか。

情報の洪水のようなネット空間では、「手短かに・単純に・歯切れよく言い切る」ことが効果的です。歴史を丁寧に振り返りながら、個人の切実な感情を大切に、顔の見える距離で戦争体験を伝え続ける営みは、こうした環境と相性が良くありません。しかし、若い人たちにも届く言葉と方法はきっとあるはず。ピースあいちの20年の蓄積に自信を持ち、柔軟にアップデートしてゆきたい。幅広い知恵を集めて、今後の活動に取り組んでゆければと思っています。



報告 戦争体験語り事業の取り組み 戦争体験を語り継ぐ会

2025年度の「戦争体験を語る」活動でお話を聞いた方は6000人を超えています。来館された学校や団体・グループへの語りは37回、要請のあった学校や団体・グループへの派遣は48回でした。

また、戦後80年事業で完成した「90人の戦争体験者の語り映像」は

来館者にいつでも視聴していただける「体験談」となっています。

戦争や紛争が世界各地で起こっている今日、「自分事」として平和を考える取り組みとして、戦争体験を語り継ぐ活動を充実していきたいと考えています。



体験者の語り継ぎの試演会の様子
終了後、みんなで意見を言い合い、それを参考に語りをブラッシュアップしていく

●感想● 「小学校5年生の娘は、生の戦争体験談を聞ける最後の世代です。このような機会をありがとうございます」「語り継ぎ手の方の活動に尊敬の気持ちをもちました」

「人を憎まず戦争を憎む気持ち、当時の辛い生活が痛いほどわかりました」「戦争は自分の所では起こっていないと思っていたけど、すぐ近くで起こっていたことを知った」

報告 ■ガイド研修会(3月5日)

ピースあいちでは、希望される来館団体やグループに展示ガイドをしています。今年度は65団体(大人692人、子ども669人)でした。そのための研修会も随時行って、ガイドを希望しないボランティアも参加して、展示への理解を深めています。



■ボランティア全体会(3月14日)

25年度より参加の新しいボランティア10名余の皆さん含め30名ほどが集いました。冒頭、鈴木秀幸理事長が開館当初の様子を紹介、「ボランティアに支えられてきた19年間であった」と振り返りました。

新しい皆さんからは、参加の動機が語られました。また、ピースあいちで展開している様々な活動が紹介され、自由に参加し、一緒に活動していこうと呼びかけられました。仲間の声を聴き、ピースあいちに期待する気持ちを語り合う良い機会となりました。



報告 ■プチギャラリーの展示から

名古屋市立瑞穂ヶ丘中学生の平和新聞(2025年11月15日～2026年1月31日)

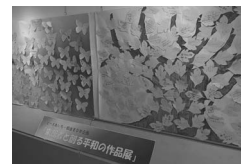
2階プチギャラリーに展示された32点の平和新聞。制作した生徒のみなさんが、祖父母やご家族と来館され、作品を前に語り合う姿が見られました。

また、来館された方からは「生徒の皆さんの詳細な感想文はとても中学生には思えず、大変驚きました。指導される先生のご尽力の賜物と思います」「こうした教育は中学生からで決して遅くありませんね」「感性豊かな生徒さんだからこそ素晴らしい実践だと思います」など、声が寄せられました。



戦後80年企画「来館者と創る平和の作品展」

来館者のみなさんに平和や戦争についての想いを自由に書いていただき、それを集めて大きな作品を作り上げようとする企画。4月から始めた企画。4月から7月のメッセージカードは、長寿や再生の意味を持つ沖縄のシンボル「オオゴマダラ(蝶々)」。8月から11月のカードは原爆で破壊された街にいち早く芽吹いた「アオギリ」の葉。12月から3月のカードは平和を願う鳩の「羽」。メッセージでいっぱいタペストリーがプチギャラリーを飾っています。(鳩のタペストリーは製作中)



■充実してきました！2階「みんなのひろば」

2階の常設展示の片隅に設けられた大型テレビのあるコーナー「みんなのひろば」が充実してきました。映像は、「ピースあいちの語り手90人の語り動画」「戦争体験の映像紙芝居」4作品、「過去の企画展の関連映像」、沖縄県平和祈念資料館からご提供いただいた「沖縄戦体験者8人の証言映像」(5月「沖縄

展」以後)が視聴できます。どれも、ボランティアや協力者が知恵を絞って手作りした、思いのこもった作品です。

子どもたち向けの図書コーナーや、「カルタ」「紙製のランドセル」な



ど手に持って確かめてもらえるコーナーも設けました。展示を観るだけでなく、ピースあいちでゆっくりと過ごしていただけたらと思います。

シリーズ
平和を守る仲間たち②

20年続けている工場跡地見学会
—豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会

豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会が建設検討委員に加わってできた豊川海軍工廠平和公園が2018年に開園して8年になります。公園建設の目的の中にあつた、ボランティアによる戦争遺構の解説や語り継ぎ、豊川市の小学校6年生全員がこの公園に来て研修することなどは予定通り進んでいると思います。

自治体が作った戦争遺跡の入る平和公園は全国的にも希ですが、今や豊川の平和公園を訪れる人は県外にも広がっています。同時に平和公園ができたことで、今まで闇に包まれてきた当時の悲惨な戦争の情報も集まってきました。

跡地保存をすすめる会の中心活動の一つであつた工場跡地見学会は発足から約20年経ちました。平和公園内の火薬庫と信管置き場の遺構はボランティアガ

イドの案内で常時見学できますし、教育委員会主催の隣接する名古屋大学研究所内に残る貴重な遺構の見学も年4回(冬の時期のみ)行われています。

でも跡地保存をすすめる会の出番はまだあります。平和公園交流館内「展示室」を皆で見学・解説したり、周辺敷地内に残る工場遺構の見学、工場に関連して建設された施設などの見学会も実施しております。

どこの組織でも共通の悩みでしょうが、若い人にこの運動をいかに伝え、継続していつもらえるかです。

日本だけでなく世界を見ても20世紀にあつた戦争の歴史を後戻りさせかねない今の動きを見ると、自分たちに課せられた仕事の大きさを実感します。

(事務局長 山田 賢治)



第二火薬庫



材料置き場



街路灯

ボランティアの窓

託された遺品・赤い手帳を
収蔵していただいて

青柳 清子

私の母の妹・平手妙子は、1945年1月23日名古屋市立第三高等女学校(市三)2年生のとき、校庭の防空壕に落ちた米軍の爆弾で吹き飛ばされて亡くなりました。14歳でした。妙子を含め42人の女学生が命を落としました。同校3年生だった廣子は六番町の工場に勤労働員されていて無事でした。母は長女、廣子は四女、妙子は五女で末っ子です。太平洋戦争のとき学生・生徒は戦争に動員され、市三の1、2年生は学校工場で働いていました。三菱発動機名古屋製作所の空襲の際、米軍は余った爆弾を東区東片端の市三に捨てたのです。妙子の遺品・赤い手帳を廣子から託され、後世に伝えたいとピースあいちに収蔵していただいたのがボランティアのきっかけです。戦争で命を落とした人、肉親を失った人のため、そして戦争のない未来のために。



タカドーを使ってくれて
ありがとう

高堂 眞一

本を2冊書いて、ピースあいちに寄贈できたらと妻と来館。「ボランティアをやりませんか」と言われ、妻が「やれ!」と言うのがきっかけだった。木曜日の当番は月2回がいつからか毎週来るようになった。そのうち、ピースあいち創立前の学習会文書(展示ガイドの手引き)を見せてもらい全部ワード文書にして読んだ。「一度展示ガイドをやってみて」とお話がありガイドを始めた。いろんな方の助言ももらいながら考え、工夫しながら楽しくやっている。アンケートに「お話がよくわかった。ここに来て良かった」と書いてあるとやっぱりうれしい。



昨年2月に図書の本棚にあった『万人坑』『七三一部隊鉄証』と《上海日軍慰安所実録》《日軍慰安婦制度批判》に出会った。そして6月、加害を考えるため中国への旅にでた。昨秋は南京大虐殺を考えた。“戦争”について考えることが多くなった。今後でも来館された方がまた来たいと思ってもらえるよう努力したいと思っている。

資料館探訪 43

柘塚飛行場跡(現ますづかみそ)

味噌蔵の歴史に興味があり、ピースあいちの仲間とともに訪れた豊田にある「ますづかみそ」。この味噌蔵は第二次世界大戦当時、第三岡崎海軍航空隊の施設として使用され、戦時中は戦闘機の格納庫や兵舎として使われていました。全国から13000人の若者が集められ、主に戦闘機搭乗兵と整備士の訓練を受けた後、戦地に向かって行きました。



現在も使われている味噌蔵

この海軍航空隊は、豊田市、岡崎市、安城市にまたがっていました。敗戦とともに日本中が混乱しすべてが失われ、アメリカの進駐軍が来ると、この地域では大騒ぎとなりました。

いまこの地域は広大な農地で農作物が育てられ、その近くには三菱自動車や愛知環状鉄道が走っており、南の方には旧東海道があり予科練の碑が建立されています。



戦中・戦後の工場の様子を示すパネル(味噌蔵の一角に展示されている)

「ますづかみそ」は、当時のままの建物で伝統的な製法を守り味噌づくりを続けています。味噌づくりを学べる「みその学校」も開催しています。

こういった地域に残る戦跡を訪れると、平和ないまを生きていることが幸せだと感じます。これからも平和な世の中が続き、将来決して戦前と言われないように、永遠に戦後であるようにと願っています。(ST)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

新会員を大募集中!! 知人・友人にもお伝えください。

「ピースあいち」は、民営でボランティア運営でも、光熱費・固定資産税等で施設維持に年1200万円かかります。他方で収入は、展示会などで来館された方の入館料(大人300円、こども100円)は、年100万円にとどきません。多額のご寄付や助成金がとても大きな助けになっています。最も頼りになるのは、会員の皆様からいただく年会費収入です。正会員6000円、賛助会員3000円です。いま、正会員が約330人、賛助会員は約400人。もっともっと増やしたいのです。

「ピースあいち」の活動に共鳴していただける方なら、どなたでも大歓迎です。電話・Fax 052-602-4222にご一報ください。クレジットカード、銀行振込で入会、寄付していただけます。郵便振り込み払込み取扱票記号番号 00830-8-13084 NPO平和のための戦争メモリアルセンター



オンラインの
入会はこちら

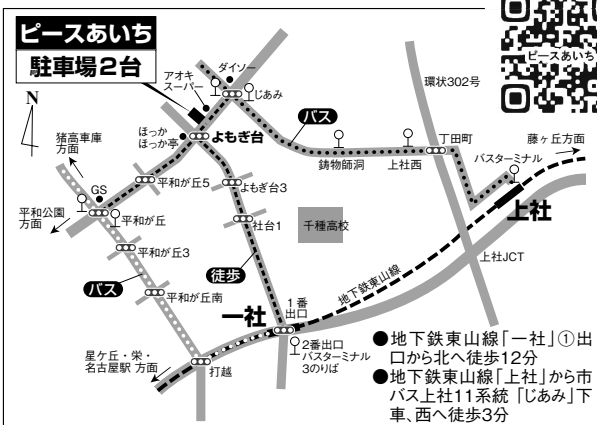


オンラインの
寄付はこちら

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日
- 入館料 大人300円・小中高生100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験動画のライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

2月28日、米・イスラエルのイラン攻撃で世界が激変しました。ホルムズ海峡が航行できないことで、こんなに多くの国で人々の暮らしが脅かされるとは。資源を輸入に頼っている日本にとって、平和な世界がいかに大切かを実感しています。折しも訪米した高市首相は同海峡への貢献について、「我が国の法律の範囲内のできることでできないことがあると大統領に伝えた」と報告しました。平和憲法が大きな盾になっています。

(AY)